

内 容
・特集：日本とタイの動物衛生研究交流会議

特集 日本とタイの動物衛生研究交流会議

OSAKI Makoto

細菌・寄生虫研究領域 主任研究員 **大崎 慎人**

MIKAMI Osamu

企画管理部業務推進室 企画チーム長 **三上 修**

SATO Masumi

病態研究領域 領域長 **佐藤 真澄**

本年7月16～18日の3日間にわたり、タイ国立動物衛生研究所（T-NIAH）において第3回タイ-日動物衛生研究交流会議2014（The 3rd Thailand-Japan Joint Conference on Animal Health 2014）が開催されました。本会議は2012年に動物衛生研究所（NIAH）とタイ農業協同組合省畜産振興局（DLD）が締結した連携強化に向けた包括MOU（研究協力協定）に基づき、タイと日本で交互に開催しているものです。詳細は動衛研ホームページの津田所長のページをご参照ください（<http://www.naro.affrc.go.jp/niah/introduction/director/greeting/201408.html>）。3回目の今回はタイ側の開催で、基調講演および一般口演、ポスター発表、日-タイ NIAH 会議等を行いました。

動衛研からは所長以下19名が参加しました。津



Thanawat 博士（DLD）、津田所長（NIAH）、Preechas 所長（T-NIAH）（左から）

田所長によるこれまでの日-タイ動物衛生研究の交流の歴史（表）、現状、そして将来のビジョンに関

する基調講演「Thailand-Japan Animal Health Research」、宮崎大学 三澤教授による One Health の観点から動物疾病防除の方策に関する基調講演「The Global harmonization for Animal epidemic prevention strategy」に続いて、一般口演、ポスター発表が行われ、今後の共同研究を見据えた話題提供の場となりました。

翌日は DLD の Dr. Thanawat Tiensin による基調講演「Transboundary animal diseases and food safety issues: Challenges and opportunities for capability building of Veterinary services and research」が

表. 日本とタイの研究・技術交流の歴史

ステージ	実施年	事業名	事業主体
牛疫ワクチン製造協力から共同研究の推進	1958-1967	牛疫ワクチンの製造	FAO
	1967-1977	口蹄疫に関する国際共同研究	熱帯農研
JICA による技術協力	1977-1986	家畜衛生改善計画	JICA
	1986-1993	家畜衛生・生産研究所計画 フェーズ I	JICA
	1993-2001	家畜衛生研究所計画 フェーズ II	JICA
	2001-2006	タイ及び周辺国における家畜疾病防除計画	JICA
新しい協力関係の構築	2005-現在	タイ-日本 人獣感染症共同研究センター（ZDCC）	J-GRID
	2012-現在	タイ-日動物衛生交流会議	

特集 日本とタイの動物衛生研究交流会議



タイ NIAH 建物（中庭から）

行われました。ポスターセッションと個別ディスカッションに続いて、日本側参加者 18 名と T-NIAH 主要メンバー約 20 名とで意見交換（日－タイ NIAH 会議）を行いました。会議では、今後の日タイ研究協力のあり方について、研究課題・問題点を挙げ、両国で意見交換が行われました。ウイルス分野ではインフルエンザ、豚コレラ、豚流行性下痢、豚繁殖・呼吸障害症候群、口蹄疫、細菌分野では豚レンサ球菌、蜂病、豚丹毒、抗酸菌、病理分野では免疫組織化学的検査の疾病診断への活用、生化学分野ではカビ毒による飼料汚染が問題点として認識されました。これらのトピックについて、両国スタッフの「顔が見える関係」を活かした連携協力さらには共同研究への発展が期待されます。

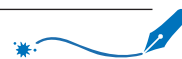
次回（2015 年）は日本で 7 月中旬を目途に開催される予定です。トピックを決めたワークショップ形式などが提案され、これら

の意見を元に両国のコーディネーター・事務局で検討していきます。

（所感）タイ－日動物衛生研究交流会議が始まったきっかけの一つには、JICA 等のプロジェクトを経験した世代の絆を、若い世代にも引き継げるようにしたいという意志があったと聞いています。3 日間という短い期間でしたが、両国のスタッフが集結し互いの発表を聞き、一緒に食事をし、様々な時間を共有でき、これまで交流の少なかった世代にも顔の見える関係を構築する機会になったことと思います。また、日本側

の若い研究者にとっては、教科書でしか見たことのない疾病の実際を学ぶ機会ともなり、新興・再興疾病に対する準備をする上でも良い機会となります。T-NIAH には数多くの若いスタッフが所属し、精力的に諸問題に取り組んでいます。会議は毎年開催される予定です。国内の多くの家畜衛生関係者にも参加いただき、アジアの専門家との交流が積極的に、より活発になればと思います。文末になりますが、盛大な Welcome Party を含めて手厚い歓迎をいただいたタイの皆さんに心から御礼申し上げます。（文責：大崎





参考資料1. タイ一日動物衛生研究交流会議発表演題

Keynote lecture

- Tomoyuki Tsuda, **Thailand-Japan animal health research.**
 Naoaki Misawa, **University of Miyazaki and recent advances in animal disease.**
 Thanawat Tiensin, **Transboundary Animal Diseases and Food Safety Issues: Challenges and Opportunities for Capacity building of Veterinary services and research.**

Oral presentation

- Katsuhiko Fukai, et al., **Experimental infection of animals with a foot-and-mouth disease virus isolated from the 2010 epidemic in Japan.**
 Panithan Thongtha, et al., **Molecular epidemiology surveillance of foot and mouth disease virus type A in Thailand during 2012-2014.**
 Ken-ichiro Kameyama, et al., **Transition of Bovine viral diarrhea virus subgenotypes in Japan.**
 Nawaporn Tearsing, et al., **Detection of bovine leukemia virus proviral DNA associated with lymphoma by In situ hybridization technique.**
 Ryota Tsunekuni, et al., **Avian paramyxoviruses are vaccine vector candidates that escape immunity conferred by NDV vaccination in chickens.**
 Narupol Promkuntod, et al., **Genetic variation of infectious bronchitis virus in southern Thailand.**
 Katsushi Kanehira, et al., **Genetic analysis of an H5N8 highly pathogenic avian influenza virus isolated from chickens in Japan in 2014.**
 Itsuro Yamane, et al., **Application of the PigINFO benchmarking system to analyze effects of PRRS virus on herd productivity.**
 Michihiro Takagi, et al., **Pathogenicity of porcine reproductive and respiratory syndrome virus isolated in Japan.**
 Nimit Choe-ngern, et al., **A case report: Orf virus in goats in Chonburi province.**
 Daisuke Takamatsu, et al., **Multilocus sequence typing analysis of *Melissococcus plutonius* isolated from European and Japanese honeybees: Spread of some sequence types across borders and bee species.**
 Yukino Tamamura, et al., **Characterization of virulence-resistance plasmids carried by emerging multidrug resistant *Salmonella* Typhimurium isolated from cattle in Hokkaido, Japan.**
 Pattarin Opaschaitat, et al., **Mapping of Q fever in ruminants, Thailand during 2012-2013.**
 Yoshihiro Shimoji, et al., **Role of cell-surface molecules of *Erysipelothrix rhusiopathiae* in adherence to porcine endothelial cell.**
 Masatoshi Okura, et al., **Development of a novel PCR-based method for typing of capsular polysaccharide synthesis gene clusters of *Streptococcus suis*.**
 Philaiphon Chetiyawan, et al., **Seroprevalence and risk factors of *Toxoplasma gondii* in goats and sheep in the western Thailand.**
 Juntra Wattanamethanont, et al., **External parasites of cultured freshwater fish in central region of Thailand during 2011-2013.**
 Yutaka Terada, et al., **Development of portable near-infrared (NIR) instruments and system for rapid and easy measurement of blood packed cell volume (PCV) in cattle.**
 Jamras Lerdsri, et al., **Nitrate poisoning due to ingestion of *Mimosa invisa* in cattle.**
 Ryuichi Uegaki, et al., **Changes in the concentration of fumonisins in forage rice during the growing period, differences among cultivars and identification of the causal fungus.**

特集 日本とタイの動物衛生研究交流会議

参考資料2. 日本-タイのNIAHにおける研究・技術交流の歴史

ステージ	実施年	事業名	事業主体
ステージⅠ 牛疫ワクチン 製造協力から 共同研究の推 進	1958-1967	牛疫ワクチンの製造 日本で開発した牛疫ワクチンをタイで製造。タイにおける牛疫の制圧に貢献。	FAO
	1967-1977	口蹄疫に関する国際共同研究 タイ国口蹄疫ワクチン製造センターで、口蹄疫の研究基盤整備および診断・予防に関する共同研究の推進のために日本人研究者を派遣。	熱帯農研
ステージⅡ JICAによる 技術協力	1977-1986	タイ国家畜衛生改善計画 タイにおける流行株の抗原性状を疫学的に監視する診断部門、ワクチンの効力評価を行う検定部門およびワクチンを安定的に大量生産する製造部門の3部門に技術協力。BHK細胞を用いた組織培養ワクチン製造施設で延べ1,000万頭分の牛と水牛用のワクチンを製造、南部地域診断センターへ家畜疾病診断技術を技術移転。	JICA
	1986-1993	タイ国家畜衛生・生産研究所 (NAHPI) 計画 フェーズⅠ タイにおける家畜衛生分野の試験研究体制の整備と確立を目標として、家畜生産阻害・損耗要因の究明と対策に関する調査研究、そのための技術指導と支援諸業務の助成、そして口蹄疫ワクチン製造センターのワクチン製造と診断法の改良を柱として実施。また、タイ国家畜衛生・生産研究所 (NAHPI) の設立に際し、研究体制を整備し、研究所の基盤を確立。	JICA
	1993-2001	タイ国家畜衛生研究所 (NIAH) 計画 フェーズⅡ タイ国家畜衛生研究所 (T-NIAH。NAHPIから改称) と北部、北東部および南部地域診断センターに対して技術協力。T-NIAHと地域診断センターの連携と機能強化、重要疾病の調査・研究活動の活性化、診断技術の標準化と応用をはかった結果、診断件数は年間3万例を大きく超えるまでになる。また、口蹄疫センター等で「家畜重要疾病の診断と防疫に関する第三国研修」も実施し、後に同センターがOIE東南アジア地域口蹄疫レファレンスラボラトリーに認定されるきっかけを作る。	JICA
	2001-2006	タイ及び周辺国における家畜疾病防除計画 T-NIAHとタイおよび周辺5カ国の家畜防疫技術の向上を目指すプロジェクトを実施。タイおよび周辺国の獣医技術者の人材育成と各国の家畜疾病診断研究所のネットワークを構築し、T-NIAHの東南アジア地域での位置づけは確固としたものとなる。	JICA
ステージⅢ 新しい協力関 係の構築	2005-現在	タイ-日本人獣感染症共同研究センター (ZDCC) 2005年にタイDLDとの間で研究協力協定を締結して「東南アジアにおける鳥インフルエンザ等人畜共通感染症の疫学調査研究」を開始。NIAHはT-NIAHに研究者を常駐させて、東南アジアにおける鳥および豚のインフルエンザウイルスのサーベイランスを中心に共同研究を実施中。	J-GRID
	2012-現在	タイ-日動物衛生交流会議 T-NIAHとNIAHが対等な立場で研究情報の交換や研究交流を行い、新しい世代の交流を積極的に進めることを目指す。	

* 動物衛生研究所 「日本とタイの動物衛生研究交流のあゆみ (2014年8月)」 (津田知幸) を参考に作成
<http://www.naro.affrc.go.jp/niah/introduction/director/greeting/201408.html>